

1 記録をとる

エピソード記録～色水遊び～ 4・5歳児

徳島市立川内北幼稚園

園庭に、子どもたちが自由に使えるような様々な季節の花を植えている。幼児は自分たちで作りたい色水の色に合わせて好きな花を選び、遊びに使っている。その姿をエピソード記録として**継続して記録**した。



4月の色水遊びの姿

入園したばかりの4歳児には、すり鉢とすりこぎがめずらしい様子。慣れない手つきですりこぎを使い、「こんな色できた」と保育者や友達に見せに来る。「見て見て。お茶だよ」と、たくさんあるクローバーの葉を使って色水を作る幼児が多かった。

5歳児T児は「めっちゃめっちゃ赤い色水いっぱい作りたい」と赤い花を探し作ってみる。しかし、水を足すと色が薄くなってしまふことが気に入らないようである。花を少しずつ増やすが、ペットボトルいっぱいにしたいたい思いが強いため、水を多く入れてしまい、なかなか思い通りにならない。

5歳児S児とM児は、4歳児に色水の作り方を優しく教えてあげながら遊びを楽しんでいる。「先生見よってよ！こうやったらきれいな色が出るんよ」と、すり鉢の中で、花びらをもみ始めた。何度も繰り返し取り組むうちに、すりこぎでこするより、手でもんだ方が色がよく出る花もあるということに気付いている。少しずつ水を足したり、花びらの数を増やしたりしながら、濃い色の色水を作ることを楽しんでいる。



5月の色水遊びの姿

パンジーやペチュニアなどを使って作った色水を嬉しそうに見せに来るが、時間が経つと色がなくなってしまうことに気付き、がっかりする幼児の姿も見られるようになってきた。前日持ち帰り忘れた色水を見て、「私が作ったのはこれじゃない。もっときれいなピンク色やった」と言う子どももいた。「なんでやろう？」と不思議に思っている様子である。

園庭のサクラの木に実がたくさん成っていることに気付き、「あれ取ってー」「かわいい」とたくさんの幼児が集まって来る。脚立を立てて、サクラの実を取ると、手でつぶしてみる幼児もいた。「手が赤くなった」「石けんで洗っても落ちないよ」「ジュース作ってみよう」とサクラの実を集め、色水を作り始める。「先生、見て。いつもはゴリゴリせなあかんけど、ペットボトルに入れて振っただけでジュースになるよ」「赤いのより黒い方が、すぐに色が出るな」などそれぞれの発見を伝え合い、やってみることで、サクラの実ジュース作りは大流行した。サクラの実ジュースは色が濃く、時間が経つと鮮やかさはなくなるが、色が薄くなりにくい様子。「見て。ずっときれい」と4歳児A児。使う素材によって時間が経った時の色の変化に違いがあることに気付き始めているようだ。



7月の色水遊びの姿

4歳児A児「今日はピンクを作りたいから、オシロイバナにしようかな」Y児「私はオレンジジュースにしたいから、マリーゴールドにする」など、作りたい色に合わせて花を選ぶ姿が見られるようになってきた。「オシロイバナは色変わらんよな」「オレンジジュースも色変わらんよ」など、色落ちしにくい色水についても友達同士で情報を共有し合っている。

<考察> 「こんな色できた」と偶然から生まれる色を楽しんでいた4月から、経験を重ねることにより、7月には「この色作りたい」という思いをもって、花を選ぶ姿が多く見られるようになった。加える水の量によって色の濃さが変わる、花の種類によって色もちが違ふこと、どの花が、色が薄く変わりにくいかななどを自分の経験と友達との伝え合いにより幼児なりに理解していることに驚いた。

色水遊びを通して、継続して遊ぶことで、幼児自身がいろいろなことに気付いたり、知識を自分のものにしていったりする様子がよく分かった。また、幼児が自分で好きな花を選び使いながら、いろいろな気付きを得られるよう、保育者が計画的に園庭の環境を整えていくことの大切さを改めて感じた。

子どもの関心が高く、継続して取り組んでいる同じ遊びのエピソード記録をとり続けています。この事例からは、色水遊びの中で、子どもたちが体験している内容が時期によって違ふことが見えてきます。そこでの、人や物との関わり方の違いや気付きや工夫の違いから、「科学する心」の育ちを読み取り考察しています。